

3. 熱中症はどれくらい起きているのか

3. 熱中症はどれくらい起きているのか

熱中症による死亡数は、1968年から2009年までの42年間で、7,625件(男4,567件、女3,058件)に上っています。この間の熱中症死亡者数の年次推移(図1-3)は、少ない年は26件(1982年)ですが、多い年は923件(2007年)に達しており、それぞれの年の気象条件によって大きな変動がみられます。なお、1995年以降の熱中症死亡数は年平均にすると353件となり1994年以前と比べると多くなっていますが、これは、1995年から死亡診断書の書き方が変わったことも関係していると考えられます。

これら、42年間の死亡数を男女別年齢階級別に示すと、男性では0~4歳, 15~19歳, 55~59歳および80歳を中心とするピークが見られます(図1-4)。一方、女性では0~4歳および80~84歳を中心とするピークが見られます。0~4歳は42年間で281件でありそのうち0歳が154件です。男性の15~19歳はスポーツ場面、30~59歳は労働場面での発生と考えられます。65歳以上は日常生活での発生が多いと考えられます。また、65歳以上の発生数が熱中症死亡総数に占める割合は、1995年は54%でしたが、2008年は72.1%、2009年は68.6%におよび、近年増加傾向にあります。

なお、消防庁の調査によると、2010年7~9月の期間に、全国で53,843人が熱中症で搬送されました。

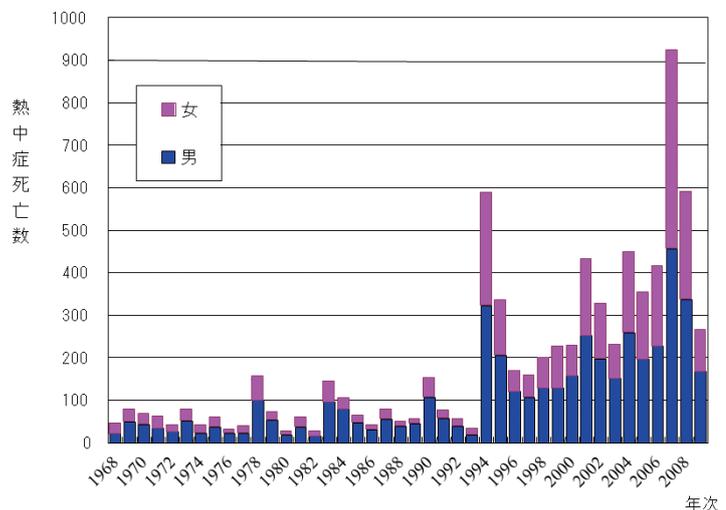


図1-3 年次別男女別熱中症死亡数(1968年~2009年)

(提供: 京都女子大学教授 中井誠一氏)

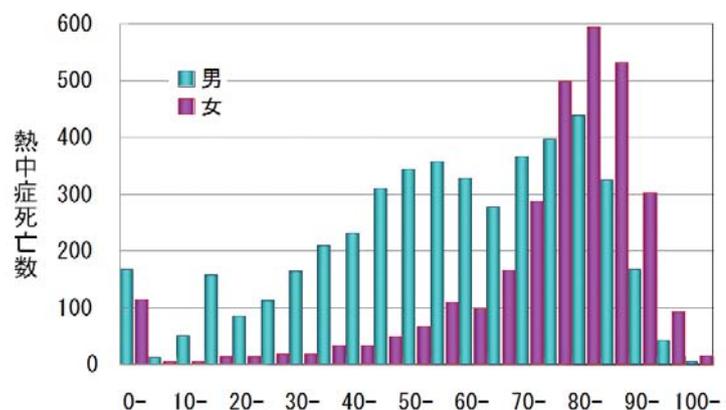


図1-4 熱中症死亡数の年齢階級別累積(1968年~2009年)

(提供: 京都女子大学教授 中井誠一氏)